広報伊方町

発行所 愛媛県西宇和郡 伊方町
編集 伊方町町長公室
印刷所 尾上印刷所 八幡浜市天神通 電話 ㊀2091番

黄金のみのり

温州ミカン 予想数量一万二千トン

本町の基幹作目である温州ミカンの収穫（早生ミカン）が開始されました。

ことしは、全国的な大豊作でやはり町でも予想数量調査の結果、史上空前の数量である一万二千トンを見込んでいます。

町内の大産地である大浜、中之浜、川永田地区の山並みは黄金色につつまれ、甘っぱいミカンの香りがいっぱい！

農家の人たちは枯魂こめてつったミカンを一個一個採収バサミの音もかろやかに摘みとって行きます。

うまいミカンづくりをめざす伊方町農協では、ことしは地帯別出荷の徹底を行ない、産地間競争に打ち勝つための販売体制を整え、㊙ミカンの名声を天下に高めんものとはりきっています。

こんご早生南柑二十号、普通温州ミカンとつづき収穫、出荷はこれからです。

ミカン農家ではネコの手も借りたいほどの忙しさになりますが、健康には十分気をつけてください。

また、ことしのミカンが高値で販売され、㊙ミカンが東京市場で「うまいミカン」の名柄として不動のものとなることを期待します。

中之浜竹村菅一氏早生ミカン園にて

九町保育所を増築

スクールバスも購入

第七十回定例議会

一般会計 一億七千四百万円ふやす

伊方町議会第七十回定例会は、九月二十八日開かれ昭和四十七年度一般会計補正予算（第三号）、任期満了による教育委員の任命など十九の議案が審議され原案どおり議決されました。

審議されたおもな内容は、つぎのとおりです。

◎昭和四十七年度一般会計補正予算（第三号）

こんどの補正予算では九町保育所の増改築費、豚のし尿処理実験施設建設費、湊浦農道新設費、スクールバス購入費など一億七千四百二十六万円が補正されました。

いままでの予算額を合算しますと九億七千七百二十二万円となり予算総額十億円にあと一歩とせまりました。

補正された予算内容は、別欄に紹介しています。

教育委員に 松下、城岡両氏

松下 鶴行氏（仁田之浜）

城岡 茂正氏（奥）

◎教育委員会委員の任命

昭和四十七年九月三十日をもって任期満了の教育委員に松下鶴行氏（仁田之浜）が再選されました。

また、辻賢二氏（豊之浦）にかわり城岡茂正氏（奥）が新しく選任同意されました。

任期は昭和五十一年九月三十日までの四年間です。

◎伊方町消防団条例の制定

町の消防団本部の機能を充実するため、本部付部長二人を増員したことなどによって制定されたもので定員は三百四十八人から三百五十人になりました。

部長の年額報酬は八千円です。

昭和三十七年につくられた消防団条例は廃止になりました。

◎湊浦農道新設事業の計画概要

湊浦向山に農道が一千五百メートル（幅員三・五メートル）新設されます。

事業費三千八百二十三万円で十月に着工し、明年七月完成の予定です。

この農道新設によって十三ヘクタールが受益をうけ、年間一千百七十人の労力節減がなされます。

◎河内上前田農道新設事業の計画概要

事業費六百三十八万円で百九十メートル（幅員三メートル）新設します。

この農道新設の受益面積は八ヘクタールで年間七百二十人の労力節減が見込まれています。

◎町道の認定

亀浦臨港線道路一千百五十四メートル（亀浦平畑から亀浦第五防波堤まで）と、宿名とう成安線百五十メートル（川永田宿名とうから伊方火葬場まで）が、今回新しく町道に認定されました。

◎昭和四十七年度国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

六十五万円が追加され総額一千六十三万円になりました。

◎昭和四十七年度学校給食特別会計補正予算（第一号）

全額給食の賄材料費です。

◎昭和四十六年度水道事業会計決算の認定

昭和四十六年度水道事業会計決算で五十六万六千円の黒字決算となりました。

しかし、一般会計から二百八十二万円の補助金をうけており、実質的には二百一十五万円の赤字であり、内容は決して健全なものとはいえないようです。

監査委員の決算意見書には水道事業の財政健全化のための検討を要する時期にあるのではないか？と指摘をうけています。

二百六十七万円が追加され総額一億三千六百十七万円になりました。

◎昭和四十七年度学校給食特別会計補正予算（第一号）

六十五万円が追加され総額一千六十三万円になりました。

全額給食の賄材料費です。

◎昭和四十六年度水道事業会計決算の認定

昭和四十六年度水道事業会計決算で五十六万六千円の黒字決算となりました。

しかし、一般会計から二百八十二万円の補助金をうけており、実質的には二百一十五万円の赤字であり、内容は決して健全なものとはいえないようです。

監査委員の決算意見書には水道事業の財政健全化のための検討を要する時期にあるのではないか？と指摘をうけています。

補正予算の内容

こんどの一般会計補正予算額は一億七千四百二十六万円で、予算総額は約十億円にせまり大型予算になっています。

昨年同期と比較した場合、三億三千五十万円の増額になっていますが、明年四月入所から百二十人となり三十人増員され、いままで定員のつごうで入所できなかったお子さんもありましたが、これで入所の狭き門が解消できる見込みです。

現在、同保育所の定員は九十人になることや、町内保育所では初めての火災報知機の設備が完備していることです。

民生費

九町保育所増築工事費八百万円

九町保育所が増築されます、建物は木造平屋建で二百十二平方メートルを有し、明年三月に卒園する園児にも新築の教室で少しでも楽しんでもらうよう二月末完成をめざして工事が進められます。

既設の保育室二室と便所を解体し、その跡へ保育室四室と便所を新築するもので一室当りの広さが以前の部屋の二倍の広さに設計しています。

増築される同保育所の施設の特徴として停電になっても自動発電によって電灯がつくようになって

衛生費

下水道整備に七百万円

下水道整備に七百万円計上し、総延長四百八十メートル整備されます。

豊之浦簡易下水道整備（延長百七十八メートル）百八十七万円

久保簡易下水道整備（延長百七十メートル）百七十六万円

亀浦簡易下水道整備（延長六十六メートル）九十六万円

古屋敷簡易下水道整備（延長三十七メートル）七十二万円

大浜簡易下水道整備（延長三十メートル）七十万円

小規模簡易下水道整備

各地区の労力提供による資材支給分 百万円。

農林水産業費

家畜汚水処理実験施設補助に四千万円

○家畜汚水処理実験整備事業補助金四千二百万円が補正され総額四千三百五十五万円になりました。

これは現在問題になっている伊方大川流域の豚のし尿処理を伊方町農協営業で行ない、町が補助金としてだすお金です。

この施設の処理方法は、活性汚泥法という方法で成頭四千頭分のし尿を処理する能力があります。

いままで大川へし尿を流していましたが、この施設が完成のあかつきにはきれいな水となって放流されることになります。

設置場所は、伊方大川沿いの養豚場敷地内につくられ、明年二月から運転開始の予定です。

○小規模かん水施設費補助金百四十二万円。

かん水用貯水槽を共同でつくる場合（用量六十トン以上＝三百三十石以上＝五戸以上、三ヘクター以上の受益があること）。標準事業費の三分の一が補助されます。町内で九基分が計上されています。

○夏柑園改植委託料八百八十四万円。

夏柑改植による苗木代や資材費（肥料など）などです。

○夏柑園再開発事業五百六十七万円。

ことし川永田地区で実施するもので、幹線農道一線及び支線作業道三線新設する工事費です。

○仁田之浜農道舗装工事二百四十六万円。

団体営事業で実施した農道を六百七十メートルアスファルト舗装します。

このほか、湊浦農道新設費及び河内上前田農道新設費などがありますが、両農道新設については前欄で計画の概要を紹介していますので省略します。

商工費

室ノ鼻電灯線工事負担金六十万円。

第六管区海上保安本部の手で建設されている室ノ鼻灯台の電灯線工事の負担金です。（詳細については、二面に掲載しています。）

土木費

○二見大松線改修工事費が一千百万円追加され、総額一千五百万円になりました。

○湊浦伊方越線改修工事費が百四十五万円追加され、総額一千四百四十五万円になりました。

○中之浜城之首線補装新設工事が五百万円プラスされ、総額一千三百万円になりました。

○湊浦河内線改修工事費二百四十五万円プラスされ、総額六百四十五万円になりました。

○宿名とう成安線改修工事四百四十七万円。

川永田宿名とうから伊方火葬場に通じる間を道路舗装（アスファルト舗装）及び改良がなされます。

○九町長崎線新設工事費百五十四万円。

消防費

○第十三分団（向）小型消防ポンプ購入四十五万円。

○中之浜地区消防施設整備事業費九十万円。

中之浜の海岸からエスロンパイプで七百五十メートル定置配管する費用です。

○湊浦地区消防施設整備事業費三十六万円。

湊浦に消火栓五カ所新設します

教育費

スクールバス五十一人乗

スクールバス購入費二百八十万円。

"おおとり"バスについで二台目のスクールバスを購入します。

乗務員を含めて乗車定員五十一人乗りのものです。

これは、現在運行している伊予鉄バス有寿来線が恋子路線のため年明四月から全面廃止になる予定であり、廃止となった場合、この伊予鉄バスを利用して伊方中学校に通学している伊方越、亀浦の生徒が困る関係上、その対策にスクールバス購入に踏み切ったものです。

運行開始の時期については、現在検討中です。

災害復旧費

九町西地区災害復旧四百八十万円

大浜（一号線）災害復旧百五万円

大浜波戸地区農地災害復旧百万円

大浜波戸地区農地保全災害復旧三百二十六万円

単独道路災害復旧 百万円

室ノ鼻に灯台

第六管区海上保安本部が建設

船舶航行の安全に重要な役割を果しているものに灯台があります。その灯台が川永田の室ノ鼻に建設されています。

第六管区海上保安本部の手で建設しているもので、十二月には待望の灯火ともります。

白色円形の鉄筋コンクリート製のもので、高さは燈火中心まで十一メートルあり光力三十五万カンデラを有し、燈質は明暗白光で明弧数は三秒に三秒の無人の小型灯台です。

現在、室ノ鼻には電気導入がなされていません。そのため川永田から延長二千二百メートルの送電線を引き電気導入を行ないます。

町では電灯線工事負担金として六十万円予算化して、灯台建設に協力しています。

室ノ鼻には海水浴場、展望台、駐車場、相撲場（土俵）、広場などの施設があり「室ノ鼻公園」と称していますが、灯台新設によって室ノ鼻公園のアイドルが一つふえたわけです。

また、この灯台が多くの船舶航路の目じるしとなります。特に伊方湾の砂利船は、この灯を見ることによって時速に帰った安堵感が湧らわれることでしょう。

室ノ鼻に電気導入がなされることによって漁業、同公園施設内に電燈布設が実現するなど多くの恩恵があることが考えられます。

十二月灯火をめざし急ピッチで建設作業が進められている

千恵ちゃん誕生

母子健康センター開所千人目

町長に抱かれた千恵ちゃん

中浦の井上良吉さんの四女千恵ちゃんが、町の母子健康センター開所以来千人目のよい子として九月二十四日うぶ声をあげました。千人目を記念しお父さんより「千恵」と命名されました。

また、前後して川永田二の山本直樹ちゃん（山本文雄さん三男）川永田の松田裕美ちゃん（松田正久さん二女）が誕生。

町ではさっそく、さいさきよい門出を祝うため、町長と成田生活環境課長が同センターを訪れ記念品を贈りました。

昭和三十九年五月に開所で八年目、その間に一千人のよい子がうぶ声をあげたわけです。

助産設備も完備し、いつでも入所分娩できる同センターの利用者も増加。

開所当時の三十九年度は入所率六十%でしたが、四十六年度では約九十%におよんでいます。

また、乳幼児や妊産婦の健康診断や栄養教室なども行なっていますので相談され、利用してください。

昭和三十九年度以来、ことしで八年目、その間に一千人のよい子がうぶ声をあげたわけです。

道路を広く——

駐車違反・物件放置に注意

せっかく、多額の費用を投じて道路を広げても、自動車の駐車場になったり、物品の置場所になったりでは、道路を広くした意味がありません。

道路を広くすることは

一、交通の渋滞を防ぐため。

二、交通事故防止のため。

などであり、駐車場や品物の置場所のためではありません。

道路は公共のもので、個人のものではありませんので、みんなで駐車違反や物件放置などしないよう注意し、事故防止とあわせ広い道路は広く使うようにしましょう。

なお、駐車違反の反則金は、普通車（軽四輪車以上）五千円、大型車六千円となっていますので充分駐車には気をつけてください。

まず〝とまる〟習慣を

町内各所にストップ・マーク

愛媛県内での昭和四十六年度中の幼児の交通事故状況をみますと事故のほとんどが〝とびだし〟です。

そこで幼児の交通事故防止は、まず、とびだしを防ぐことにあります。

そのためには、安全サイドの保育所や学校の校門、歩道、路地などから危険サイドの車道にでるときは、「とまる」習慣を身につけさせることが何より必要です。

町と交通安全協会は、こうした町内のとびだしの危険な場所七十八カ所へストップ・マーク（とまるしるし）をつけました。ストップ・マーク（とまるしるし）作戦は、とびだし事故を防ぐための三つのパターン＝「とまる」「たしかめる」「サッサと渡る」のうち、まず「とまる」ための訓練の一方法です。

特に幼児や保育所園児、小学校低学年の児童をお持ちのお母さんは、ストップ・マークの意味を説明され、まず〝とまる〟習慣を指導してください。

スクール・ゾーン内にグリンベルト

交通安全施策の一つに町では、スクール・ゾーン内にみどり色に自手で「文」と書いたグリンベルトを電柱に掲示しています。

運転者のみなさん、このグリンベルトを表示している範囲内は、スクール・ゾーン内です。

ゾーン内は安全運転を行ない、事故は絶対におこしないようくれぐれも注意してください。

この表示に注意

目だつ故障車両

運転違反

最近、自動車の故障車両の運転が目だっています。

常に仕業点検をし、故障カ所を発見したらすぐ修理整備するようご数しましょう。

なお、これらの違反による反則金は無灯火違反で、

原付自転車　二千円

自動二輪車　三千円

普通車　三千円

大型車　四千円

となっており、整備不良車両運転違反は無灯火と同金額ですが、ハンドル、ブレーキ、走行装置等の場合は、これらの反則金より千円高くなります。

車両を整備して運転することは誰れのためのものでもなく、自分自身のためです。交通事故防止のためにも充分注意してください。

ちびっ子紹介 (6)

岡本恵美ちゃん（畑）

堀内信也ちゃん（向）

岡本恵美ちゃん（畑＝岡本求氏二女）は、現在一年九カ月です。

この写真は近所のおばあちゃん宅の庭で撮影したものだそうです。

ヤブレガサ（草の名前）を左手に裸足の姿、あどけない姿が印象的です。

以下はお母さんの記「アタチだって、おにいちゃんたちといっしょに遊べるのに……こんな表情です。」

堀内信也ちゃん（向＝堀内利和氏長男）は、現在一年四カ月です。

ことしの五月下旬に自宅で撮影されたものです。

信也ちゃんはまるまるとよく太った健康児。きょうはおもちゃにまたがり、乗機嫌が一段とよいようです。

赤いほっぺに小さなお手で、いたずら気の多い年頃です。

白いセータが格好よく似合います。

質問コーナー (3)

診療所は町営か

【問】町内に伊方診療所、加周診療所と呼ばれている「診療所」があるが、町営で行なっているのかどうか？また、敷地等は町有地なのかどうか？

知らない人が多いようだ、このさい広報紙で熟知してほしい。（町内一主婦）

【答】ご指摘のように町内では二つの診療所名で呼ばれていますが両者とも町営の診療所ではありません。

加周診療所は昭和三十一年十一月二見地区一帯の医療対策に開設されました。

建物、敷地については町有財産ですが、川永田で開業医されている栗田龍彦氏が建物を管理すると同時に診療所を開いているものです。

伊方診療所は湾浦の宇高正夫氏が経営されています。

この伊方診療所の敷地問題については、町と宇高正夫氏との間で土地の所有権をめぐって抗争（八幡浜簡易裁判所）されていましたが、判決の結果、町有地である判決がなされました。その後宇高正夫氏より高松高裁に控訴されていましたが、調停の結果、和解で町に返還することで解決しました。

同診療所は、昭和十四年に開設されたものですが、当時の伊方村は村内に適当な医療施設がなく、住民は不自由していたところ、地方医師界の有力者であった故岡部一作氏（当時川之石町立病院長）に医師のあっせんをたのみ、村有地を診療所敷地として無償で貸与していたものです。

伊方診療所という名称があっても、個人の開業医で町営ではありません。

人

昭和47年9月末現在
世帯数　2,476戸（＋1戸）

人口 9,256人（＋6人）｛男4,413人（＋5人）｛女4,843人（＋1人）｝

えんむすび

昭和47年9月1日
9月30日

お誕生おめでとう

昭和47年9月1日
7303

おくやみ

昭和47年9月1日
9月30日

善意箱

老人クラブへ座布団

中浦の宇都宮勇氏から中浦老人クラブへ座布団四十枚が寄贈されました。

長年社会に貢献したお年よりに敬老会などの際に役立てほしいと願い贈られたものです。

紙上より厚くお礼申し上げます。

——お礼——

北九州市八幡区吾田町五丁目にお住いの山下谷氏（九町出身）より千円。広報編集費にとご寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

秋季全国火災予防運動
11月26日～12月2日まで

たばこの投げ捨てと
寝たばこは絶対に
やめましょう。

伊方町消防団